

大ニユース

シネスコ版

道新 193 100-2の島かじり-焼灰-文芸-107R (本編トッパへ追加)
高知新 228 本編同V
新愛媛 106
No. 443 37.7.13

甲子新 119 社園377-庭道-77R (本編トッパへ追加)

一、能登のあばれ祭

—石川

七月七日・八日は石川県能登町宇出津八坂神社の夏祭りです。これは別名「あばれ祭」ともいって、町の若者たちが、二台のミコシを火攻め水攻めで、いためつけ、無病そくさいと豊漁を祈願するのです。祭りは夜通しおこなわれ、水を浴び、火にかけられたミコシがばらばらになるまで続くのです。北陸の夏はこの祭りから本格化するといってもいいでしょう。

一、歩くにも免許証

—愛知・大阪

昨今の交通戦争は日増しにはげしくなる一方、車に乗るよりは歩いた方が早いという時勢にそこは商売に目ざといなむ、商人が一昔前のリンクタ屋を復活、露地を結構かせぎまくっています。又豊田市の朝日丘中学では通学自転車に免許制度を実施、学科、実地となかなか厳格にとりまっています。ところが自転車ならいざ知らず歩くにも免許証なんて笑えないのが時勢、名古屋市の上野小学校ではこの程テクシ免許証を発行、これは廊下階段のスピードと追越しを取りしまるもの、こうした実地教育で子供たちを交通戦争から守ろうと真けんにとりくんではいるのです。

アイモ風土記

一、東京の秘境

マンモス都市大東京の一隅にありながら、海拔八〇〇メートルの山腹で昔ながらの生活を営む集落があります。奥多摩の山山が、そのまま山梨県へつながる都県境の尾根に近く、切りたつた斜面に点在するその集落は、そのむかし、織田に敗れた武田の残党がひそかに住みついたといわれています。

現在も武田姓が三軒、山本勘介につながる山本姓が九軒、むかしながらの主従関係で結ばれています。この武田家のように、この谷では一つの集落が一つの山地主を中心になりたっており、「お前」という家柄の山地主が、経済の中心となり、他の者は山子としてやとわれているもの。

山林三百ヘクタールを所有する数馬の中村家は、「数馬殿様」と呼ばれ、そうした集落の典型として殿様中心の素朴な人間関係を温存しています。

とまれ、西多摩郡檜原村の山中は、明実ともに大東京の秘境なのです。

672R

356R

177R

137R